

## 少子化危機突破タスクフォース（第2期）情報提供チーム第3回

1. 日 時 平成26年3月25日（火）14:59～16:54

2. 場 所 中央合同庁舎4号館1208特別会議室

### 3. 出席者

森 まさこ 内閣府特命担当大臣（少子化対策）

（構成員）

安藏 伸治 明治大学政治経済学部教授、日本人口学会会長

井上 敬子 文藝春秋「CREA」局出版部統括次長

後藤 憲子 ベネッセ教育総合研究所 次世代研究室室長

齊藤 英和 国立成育医療研究センター母性医療診療部不妊診療科医長

宋 美玄 川崎医科大学産婦人科

宮島 香澄 日本テレビ報道局解説委員

吉村 美栄子 山形県知事

（オブザーバー）

平松 祐司 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授

（内閣官房）

吉村 泰典 内閣官房参与

### 4. 議事次第

（1）山形県における取組について

・吉村委員よりヒアリング

（2）公益社団法人日本産科婦人科学会の取組について

・公益社団法人日本産科婦人科学会未来ビジョン委員会委員長

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 平松氏よりヒアリング

（3）諸外国の事例等について

（4）議論の整理

（5）意見交換

( 6 ) 森大臣からの挨拶

## 5 . 議事概要

### ( 1 ) 山形県における取組について

#### 吉村委員によるプレゼンテーション

資料 1 に基づき、「山形県における結婚、妊娠・出産、子育てに関する情報提供～よりよいライフデザイン形成に向けて～」をテーマに、山形県における特徴的な政策や今後の提案について、プレゼンテーションが行われた。

#### 吉村委員のプレゼンテーションに関する質疑

- ・( 宋委員 ) 「結婚・子育てポジティブキャンペーンの展開」について、一歩間違えると価値観の押し付けになる。家庭環境の悪いところで育った子どもなど苦痛に感じる子どももいるので、配慮があるとよいと思う。
- ・( 安藏リーダー ) 山形県の若者の人口流出について、男女の違いはあるのか。
- ・( 吉村委員 ) 今手元にはないが、男性のほうが進学という点で、流出が多いというデータがある。
- ・( 安藏リーダー ) では、若い女性の方は山形県にとどまっているなので、U ターンなどで若者が戻ってくれば、出生に関しては可能性があるということか。
- ・( 吉村委員 ) そう思うが、絶対数が少なくなればかつ晩婚化・晩産化が進んでいる。婚活に力を入れているが、婚活サポーターからは、若者の意識が難しく、成婚までつなげていくことが大変だという声が聞こえてきている。
- ・( 武川統括官 ) 地方では社会減が特に大変であるが、山形県ではU ターンやI ターン等の施策にかなり取り組んでいるのか。また、県庁所在地といくつかの拠点都市を整備し、そこで社会減に歯止めをかけるということを考える人もいるが、それについてはどう思うか。
- ・( 吉村委員 ) 地方に大学がたくさんはないため、進学で一旦都会へ出ることはどうにもならない。ただ、帰りたいという人がいても就職先がないことが、人口減少の大きな原因である。働く場所があれば、東京に出て行っても戻ってくるという現象がある。働く場を地元の産業で作り出す、企業誘致やエネルギー産業も含め働く場を確保することを第一に掲げて頑張ることが、大きいと思う。

### ( 2 ) 公益社団法人日本産科婦人科学会の取組について

公益社団法人日本産科婦人科学会未来ビジョン委員会委員長、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 平松氏によるプレゼンテーション

資料 2 「女性の健康手帳 Woman+」に基づき、生涯を通じて健康を保持できるライフプランを考えるため、医学的かつ科学的に正確な情報提供を図り、女性のみならず男性にも

見てもらえる女性の健康手帳 Woman+ の作成プロジェクトについて、プレゼンテーションが行われた。

平松氏のプレゼンテーションに関する質疑

・(安蔵リーダー) この取組について、いつまでに何をするのかというタイムスケジュールは考えているのか。

・(平松氏) 夏頃までには作成したいと思っており、現在詰め作業に取り組んでいる。

・(吉村委員) 男性の健康手帳 Man+ もあったほうが良いと思う。母子手帳に子どもの記録をしていくか、生まれた時点で Woman+ や Man+ が配布されれば、子どもが成長した時に、その子記録を渡すようなことができるかと思う。

・(平松委員) 行き着くところはそれを狙いたいですが、経費の問題等、色々なことがあるため、この会議でも応援いただければそういう方向を目指せると思う。

・(宮島委員) 本当にすばらしい構想だと思うが、前に女性手帳構想がいろいろな抵抗を受けたのは、子どもを産むのが女性だけだと言っているように伝わってしまったことが大きく、何とかそこを和らげる方法があったほうが良いと思っていた。Woman+ において、不妊など、取り扱う内容について具体的な構想があったら教えていただきたい。また、男性の不妊については、パートナーを持つ前の段階でも気をつけたほうが良いことがあると思う。現状では、どういうリーチの仕方があるのか。

・(平松氏) 男性の役割などもできるだけ入れて、執筆するつもりである。・(宋委員) 男性の性機能を専門とした泌尿器科の先生たちにお任せするのもいいかと思う。商業メディアが発信する眉つば情報を信じている女性が非常に多い。Woman+に医学的根拠があまりないような情報に関するコーナーがあると親切で効率が良いと思う。

・(平松氏) 副読本やスマートフォンなどのサイトをつくる。岡山県内の医師などから情報を集めて、そういうものをつくるのは、あまり難しいことではないと思う。協力をお願いしたい。

・(井上委員) 本当に女性の体のことを考えたいコンテンツができそうだと思うが、少子化対策の一環としては少し引かかる。これまで女性ばかりになっていた少子化対策を、男女ともに考えようという方向になっているが、それをまた女性に押しつけるのかというふうに一見、見えてしまうところが難しいと思う。副読本は書店で販売予定なのか、また、広告掲載のクライアントはどういったところを想定しているのか、もし決まっていれば教えてほしい。

・(平松氏) 副読本も販売はしない。学会がオーソライズしたものだということで、格調あるものにしたい。広報誌『Anetis』が年4回、30万部配布されているため、それを通じて啓発や手帳の内容や配布場所を伝えていく。

### (3) 諸外国の事例等について

参考資料に基づき、以下の内容について事務局より報告。

参考資料3 - 1 及び2 : 諸外国における妊娠・出産等に関する情報提供事例

参考資料4 : 妊娠・出産等に関する情報提供の在り方

参考資料5 : 妊娠・出産等に関する情報提供事例

参考資料6 : 地域少子化対策強化交付金の活用例

#### 事務局からの報告に関する質疑

・(齊藤座長) この資料6の事業例は、とても大切なことを的確にまとめていると思う。小学校、中学校、高校、大学への正しい知識の提供について、母性衛生学会、産婦人科学会、助産師会、看護師会に協力いただくと、かなり充実した啓発活動がしていけると思う。また、リーフレットを全国的につくるのも大切なことではあるが、地方に合ったもう少しきめ細かいものもできるのではないかと思う。

### (4) 議論の整理

資料7に基づき、情報提供チームの議論の整理について事務局より説明。

安藏リーダーより資料7を検討し、議論の整理・取りまとめを行い、4月開催予定のタスクフォース全体会で報告する旨説明。

#### 事務局からの説明に関する質疑

・(後藤委員) 「個人の自由な選択を尊重する」の「委員からの主な意見」に「多様化している30代への情報提供の工夫」という記載があるが、そこをもう少し深め、資料3 - 1中のイギリスの事例にあるようなリスクファクターについての情報提供、自身の危険因子に基づいた個別アドバイスが受けられるなど、個人の状況に合わせた相談対応の記載をもう少し入れられれば良いと思った。

・(宋委員) よくまとまっていると思う。特に意見はない。

・(宮島委員) 男性への情報提供をどうするかという課題がある。産婦人科学会の女性の健康手帳はすばらしく、この10分の1の情報でもいいので、男性に届けなければ、という気持ちがある。女性手帳を成人式などで女性だけに配られると、産婦人科学会の意思というよりも、行政や政府が女性だけに配っているもののように見えてしまう側面がある。そのため、この学会の手帳のようなのと山形県のリーフレットのようなものを同時に配るなど、男性へのリーチの仕方を具体的に考えられないか。また、商業ベースで見たとき、女性の雑誌には子どもが欲しいというような内容があるが、男性の雑誌ではあまり見かけない。潜在的に、将来子どもが欲しいと思っている男性の意識を喚起するような方法について、男性への情報提供という点で丁寧に考えたいと思う。

・(吉村委員)よくまとまっていると思うが、情報提供や個人の選択も大事であるが、少子化危機突破というのは非常に大きな社会問題であり、海外の事例のような国家の成功モデルというような物もあったほうが良いと思う。

・(齊藤座長)具体的な少子化対策が、なぜそれが必要なのかという大きな視点を、いずれかの部分で示すことがすごく大切である。男性へ情報提供という点について、どういふものを知識として情報提供していくべきかというのは、かなり難しい。女性のものはたくさんあるが、男性に関わることをどう具体的にパンフレットにするかというのはかなり難しい。

・(宋委員)男性への情報提供だが、男性性機能の専門の先生方では非常に熱心な方がいらっしゃるので、協力をお願いして、男性のインフルエンサーが男性の若者たちに発信するというのがあるのではないかなと思う。また、国全体で見ると少子化、子育て支援というのはこんなに大切で、しないとこんなことになってしまう、ということを入れるというのはすごく大事な視点かなと思う。

・(安藏リーダー)このチームでやるべきことというのは、妊娠・出産、結婚について情報、知識がないために選択できないという状況にはならないようにすることだと思う。共働きで家族形成をし、仕事が継続できる社会というのは、やはり少子化危機の一番大きな点だと思うが、そこは全体会で話すことであり、情報提供チームでは、妊娠・出産、結婚、育児等も含め、正しい情報を的確に届けることを議論すべきだと思う。全体の政策は必要であるが、その中での情報提供というふうには私は位置づけて考えている。

・(麻田審議官)タスクフォース全体を政策チームと情報提供チームに分けて議論し、全体会を4月に開催するが、その場で各チームがこれまでの議論を持ち寄り、全体として議論をする。少子化という国家的な事柄について危機を突破するための全体像というのは次回、4月の全体会合の中でまた議論する機会を持ちたいと思っている。

・(齊藤座長)地方にとって大切なのは、就職できるように持っていくこと。それは、おそらく県だけではなかなか難しいところもあると思う。地方では子育てに関し色々な政策が出ているので、あとは若い者が就職できるような政策を国として出せば、地方がもっと活性化するのではないかな。

・(吉村委員)その点が最も大事なことだと感じている。働くことができなければ収入がなく、収入がなければ結婚もできない、子育ても立ち行かないので、若者の就職はとても大事なことだと思っている。企業誘致だけではなくて、国家的な施策が必要ではないかな。責任逃れをするつもりはないが、一生懸命に婚活を頑張っても、職を求めて人が流出しているというのが現実である。ふるさと知事ネットワークの13県知事が、自立と分散ということを政府に提言しているが、都市集中がどうにもならない。しかし、その都市もどんどん高齢化していく。・(武川統括官)日本全体で少子化は大変な問題になっている。経済財政諮問会議の下に専門調査会を置き、選択する未来委員会ということで、中長期的な視点で議論されている。分科会である地域の未来ワーキング・グループでは、

元岩手県知事である増田氏が主査をつとめている。その増田氏の論文の中で、少子化対策は、地方においては、職場、地域振興だということ、政府の方は、少子化社会対策大綱について、次のものを検討しないといけないので、大綱にそういうことも盛り込んでいかないといけないかと思っている。地方の問題ということは日本全体の問題である。前は行政だけが心配していたが、今は産業界も結構危機感を持っているので、一緒になって議論をしていきたいと思っている。

・(吉村委員)山形県内の鮭川村という小さな村では花卉を栽培しており、そこに何十人が就職をしている。そこは本当に不便なところであるが、人口は減らない。60名ぐらいの集落であるが、人口は減らず、結婚もしている。働く場所があることが重要なんだということを確認した。田舎であっても、そういう事例をふやしていくことが大事だと思うが、結局人材育成になるかとも思う。その地域に合った産業を起こすことが一番大事になってくるかと思っており、人口減少対策と合わせて産業振興に力を入れていくべきだと思っている。

・(安藏リーダー)20年くらい前にアリゾナに行ったとき、新しい団地ができており、その居住者は皆65歳以上で、医療も完備され、スーパーマーケットもあり、おばあさんたちのチアリーディングチームだとか、シンクロナイズドチームとかあり、家からカートに乗って、アメリカの老人たちが皆そこに集まってきていた。そこで働いている若い子たちは、皆そのおじいさん、おばあさんたちをサポートするという形をとっていた。

#### (6) 森大臣からの挨拶

- ・ 少子化対策を進めるに当たって、個人の自由な選択を尊重しつつ、国民の皆様には妊娠・出産等に関する正しい情報を提供していくということ、これは大変重要であると思っている。
- ・ これまで家族の大切さ、子育ての楽しさということについては、4人のお子さんを持つタレントの中山秀征さんや、1歳になるお子さんを子育て中の女子プロゴルファーの東尾理子さんと座談会を行い、その様子を今月発売の女性誌3誌に掲載していただくなど、情報発信に取り組んでいるところである。
- ・ 先週の経済財政諮問会議において安倍総理から、少子化対策の具体化についてさまざまなアイデアを集めながら検討を進めてほしいという指示を受けた。
- ・ 本日、情報提供チームとしての議論を整理していただいたところであるが、今後はタスクフォース全体会に場を移して、少子化危機を突破するため、引き続き積極的な御議論をいただきたい。